

上田プラスチック株式会社 専務取締役 飯島 洋一 様



Q1 趣味を教えてください。

飯島…今はトレッキングに凝っています。もともと街歩きが好きで、文部省とかが認定している伝統的建造物保存地区みたいな所を踏破したりとか好きなんです。学生時代からお城が好きで、城研究会に入っていたりして、お城見に行ったり街歩いたり、しいて趣味は？と言えばそんな感じですね。まじめに言えば、ゴルフと読書が好きですよ。ゴルフはなんとなくハタなんですけど、気持ちイイし、年なんです。運動と言えばトレッキング以外はゴルフくらいしかありません。1年前まで朝ソフトボールをやっていた、外野に飛んだフライをランニングキャッチできなくてね(笑)トレッキングは凝ってるしハマってますね。車山とか飯綱とか、長野県はトレッキングに事欠かないですからね。

Q2 普段はどんな本を読んでいますか？

飯島…経営関係の本が多いですね。前に話したかもしれませんが、月に1回本を題材にして勉強会をやっているんですよ。要は飲み会なんですけど(笑)課題本があって読まなきゃいけないんですよ。池上彰というNHKのキャスターなんですけど、週刊こどもニュースをやっている。その人の本に今凝っていて、分かりやすくいろいろ解説してくれているので読めますね。山史…お城好きなので歴史の本なんかは読まないんですか？
飯島…大好き、大好き！もちろん読みますけど、生意気な事言う訳じゃないんだけど、ほとんど読んじやったんですよ。司馬遼太郎は大好きで何度も読み返してます。蝉しぐれを書いた藤沢周平とか吉村昭とかよく読みました。最近読んで面白かったのは山本兼一の「利休にたずねよ」という本が面白かったです。「歴史街道」は定期的に購読しています(笑)

Q3 歴史上でこの人には見習いたいとかっていう人物はいますか？

飯島…難しい質問をしますね～(笑)そうですね、一番好きなのは豊臣秀吉です。信長や家康も好きだけど、秀吉のがちょっと好きかなみたいな。山中…秀吉のどの辺がイイと思いますか？

飯島…基本的には初期の秀吉なんですけど、頭使って知恵使っている事をやるじゃないですか。そこが共感できる所ですね。そうあるべきだなと。秀吉の商人的発想も好きですね。それと、日本史の中でもっとも素晴らしい人をあげると言われれば、聖徳太子が一番スゴイと思います。

Q4 歴史上でも英雄の後ろには必ず女性がいますが、どいったタイプの女性が好みですか？

飯島…基本的にはさばさばした人が好みます。非常に女性っぽい人よりも、どちらかと言えば男性に近い人、カラッとした人が好きですね。結構バツと見て失敗するタイプなんです(笑)カラッとした女性って少ないですよ。特徴で言うと、肩幅の広い人が好きですね(笑)好きなんだよね(笑)一同笑
山中…(笑)何ですか？
飯島…学生時代に水泳部の女性と付き合った経験からかな～(笑)これ以上言うところちょっとマニアックになっちゃうから(笑)一同爆笑

Q5 そろそろ真面目な質問に入りますが、好きな経営者、尊敬する経営者、見習いたい経営者はどんな人ですか？

飯島…ちょっと前までは稲盛と夫が好きでしたね。経営者としてスゴイと思うし、あとホンダの藤沢武夫さんも尊敬してますね。同世代ですけど、楽天の三木谷さんも結構好きです。それから伊藤忠商事会長の丹羽さんもスゴイと思います。山中…例えば、稲盛さんで言えば、どういうところに共感できますか？
飯島…稲盛さんがスゴイと思うのは、一代で築いた点で、うちと創業も一緒なんでね、セラミックみたいな部品をやってガーツと広げたって事で、単純に、あ〜こうなりたいなっていう事なんですけどね。なおかつ経営的な感覚が、人を大事にするという所が良いなと思ったんですけど。

Q6 今後、社員をどう育てていきたいですか？理想の社員像があると思いますが…

飯島…一言で言うと、自分で問題を発見して自分で解決することができる社員に尽きると思います。そういう社員が多ければ多いほど私は楽かな(笑)山中…山登りでいくと、それは何を目指すんですか？
飯島…2合目くらい。永遠の課題だと思うんですよ。例えばQCサークルとかいろいろな活動を行なうじゃないですか。そういうのやる時は半分以上の人がやらされているっていう感覚の中でやりますよね？
飯島…ただでいい活動をやらなくて、会社という集団の中で起きている問題を自ら解決して目標に向かうっていう、ただそれだけの事だと思っているので、それを自らやってくれば、それに越した事はないですよ。山中…仕掛けとしてはどうしていますか？
飯島…今職場の問題点は何か、それをどう解決するかを聞いたりQCサークル的なことをやる訳ですよ。理想的なのは、そんな事一切なくても自然に解決してくれることですよ。山中…かなり難しい課題ですよ。
飯島…でもね、経営者はそう感じているんですよ。最初から経営者だったから、社員がどう感じるのか分からないんですよ。人はどういう価値観で動いて

事になるじゃないですか。やっぱり何かに向かって調べて発見して解決する、解決した時にやったぞーみたいな、そこじゃないかなってなんとなく思っているんですよ。そこを育てられれば良いかなと思ってます。

Q7 今後の展望を教えてください。

飯島…ん～…ないね～(笑)一同爆笑
上田プラスチックとして？ 山中…はい。
飯島…難しい質問しますね～。
正直言うと、いろいろ批判はあると思うんですけど、5年先10年先のあるべき姿っていうのをあまり見ていないんですよ。まだそこまで見れないというか、目の前にある課題が多すぎるっていうのもあるんですけど、やっぱり、良い悪いは別として、樹脂の単品メーカーなんでね、この守備範囲から抜けようとか、飛び出そうとは思ってないです。だから強いて言えば今のお取引さんから、品質とコストと納期QCQDでは上プラさんに出してれば間違いはないね、とってもらえるような会社を目指したいなと。



Q8 最後に、このSKOP異業種交流会は企業連携をテーマにしてスタートを切りましたが、飯島専務さんが考える『企業連携』のありかた、今後の取組みに関してアドバイスがあればお願いします。

飯島…この間のSKOP交流会みたいな異業種であれば、一番は社員の教育っていうことに対して横のつながりの中で情報交換しながら、成功事例や失敗事例なんかを聞ければいいかなと思いますね。使い古された言葉ですけど、人の成長なくして会社の成長はないですからね。同業の場合はね、もっとも企業連携すべきだと思いますけど、今回の業績不況の中で、設備が結構あまっている会社さんがあるんですよ。ちょっと前まではお互いに仕事を取ったり取られたりするのが嫌だということに隠す事が多かったけど、そういうのは止めちゃって、どこどこではこういう機械が余るとか、こっちではこういう機械が余ってるって中で、お互い融通しながら、お互いのお得意様を確保すればいいんじゃないかと思いますね。

次回交流会のテーマについて尋ねると…圧倒的に人、人の教育ですよ。個人のスキルについては上げればきりが無いけど、トータルで、全体で考えたときに、チームで解決することに重点を置く人を育てたい、と語ってくれました。

インタビュー:山中史郎